



気象変化による災害

近年、温暖化による気象変化が想定外の災害を起こしています。温暖化により、海面水温が上昇すると、台風が発生しやすくなってしまいます。今年9月に千葉県を襲つ

た台風15号も、昨年7月に西日本を襲った記録的豪雨も、大気の状態が不安定になったことが原因でした。気象が変化している今、こうした大災害は、いつどこで起きてもおかしくないような状況です。災害は忘れたころ



阿武隈川上流域で甚大な被害をもたらした「8.5集中豪雨」(昭和61年)。床上浸水28棟、床下浸水48棟、田冠水26ha、畑冠水50.4ha

にやってくるのではなく、今や忘れる前にやっています。「あの時は大丈夫だった」「この地域は関係ない」と過信せず、正確な判断が必要です。

自分の命は自分で守る

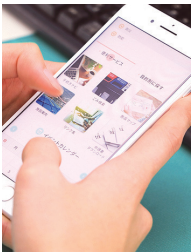
天災を防ぐことはできませんが、それに備えておくことはできます。非常時の持ち出し品を用意したり、災害に関する情報を集めたりして「防災力」を高めておきましょう。川が氾濫するかもしれない、ライフラインが途切れるかもしれない、最悪の事態を想定し、平時から一人一人が防災について考え、行動することが、自分や家族の命を守ることにつながります。

緊急速報メールや広報車など「緊急放送」を聞く

Check 02

町のホームページも

緊急速報メールが届かない、放送が聞こえないときは、同様の情報を町HPでも公開していますので、ご確認ください。



テレビだけでなく、町からの情報にも耳を傾けて

緊急速報メールとは？

気象庁や自治体が、当該エリアへ緊急地震速報や避難勧告などの災害・避難情報を配信する携帯電話向けサービス。

町は、緊急速報メールや広報車などで、該当地区の避難情報をリアルタイムで発信しています。

今回の災害は、台風が町に最接近する時間帯が夜間であることから、明るくて、風雨が強い日中のうちに避難勧告を出しました。避難のタイミングが遅れると、避難することが危険になる恐れが

あります。「まだ雨も弱いし、ここは大丈夫」と過信せず、町の放送を聞き、適切なタイミングで避難してください。また、避難に時間がかかる人は、早めの準備に心がけましょう。

また、防災無線をお持ちの町内会長は、災害時に防災無線の電源を入れたままにしてください。

Check 05 防災マップを確認する

昨年全世帯に配布した「災害ハザードマップ」。急傾斜地や浸水限定区域などが網羅されています。町のホームページからも見ることができます。



Check 04 地域の防災活動に参加する

災害が起こったときは、家族や地域の住民同士で助け合う「共助」が多くの命を救います。日ごろから地域の自主防災活動に参加し、災害時に何をすべきか、みんなで確認しておくことが大切です。



Check 03 川の水位を確認する

福島河川国道事務所では、阿武隈川周辺に数カ所設置されているライブカメラからの現地映像をリアルタイムで配信しています。

災害時、川の様子を見に、直接そばまで行くことは危険です。自宅にいながら、パソコンや携帯電話で見ることができますので、避難の目安のひとつとして活用しましょう。「LIVEあぶくまがわ」で検索。



避難情報警戒レベル

警戒レベル	住民がとるべき行動	避難情報など	発信
5	命を守る最善の方法	災害発生情報	町
4	全員避難	避難勧告・避難指示(緊急)	
3	高齢者や障がい者は避難	避難準備・高齢者等避難開始	
2	避難方法を確認	洪水注意報・大雨警報など	気象庁
1	災害への心構えを高める	早期注意情報	

近年は、関東・東北豪雨や西日本豪雨など、これまでに経験したことのない大水害が多発しています。

日ごろからハザードマップで危険箇所や避難所を確認するとともに、備蓄品の準備、被害が想定される場合には早めの避難など「自らの命は自らが守る」行動をとるようお願いします。

佐藤 正浩
生活環境課
危機管理係長



Check 01 知っておきたい5段階の警戒レベル

避難時の行動を把握する